

聞思

今号の法語
おほいなるもの
ちからにひかれゆく
わがあしあとの
おぼつかなしや
九条武子

発行所 光山寺
〒758-0063 大字山田4553
萩市 0838)22-1370
http://kousanji.net

伝灯奉告法要 萩組団体参拝予定について

第25代専如ご門主は平成28・29年にわたって、十期八十日八十座(一日一座)の伝灯奉告法要を修行されることとなりました。この伝灯奉告法要は、ご門主が法統を継承されたことを仏祖の御前に奉告するとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを期するものです。萩組では、ご本山での法要予定期間のうちで、平成二十九年三月二十八日(火曜)又は四月四日(火曜)のどちらかに団体参拝予定で、日程は本年末にはご本山より決定される。いずれの日程になった場合も日帰りコースと一泊二日コースが予定されている。ただ、今回は親鸞聖人七五〇回大遠忌法要と違い、法要日程が少ない関係で、募集人数が制限される可能性が高いので、参拝予定の方は早めに日程を予定されたい。

仏教婦人会バザーに關しての報告

光山寺仏教婦人会会長、河村一江さんより、去る六月二十七日(土曜)・二十八日(日曜)に開催された光山寺仏教婦人会法座におけるバザー(十七回目)の報告を頂きました。「今年は仏婦発足三十周年という節目を迎えました。これも偏にご住職様・坊守様の暖かいお導きの賜だと心より感謝しております。又、先輩方のご尽力によりここまでこれた事を本当に喜んでおります。さて、バザーの時期になりますと、品物は出るだろうかといつも心配致します。今年は最初は全く品物が出なくて本当に心配しましたが、皆様のご協力により沢山の手作りの作品、ケーキ・パン・橙菓子・野菜などが所狭しと並べられました。お陰で今年も無事にバザーを開催する事ができました。本当に有り難うございました。今年は十五万一千六百八十八円の収益をあげる事が出来ました。この中より五万円と募金箱募金二八三七円をネパール地震支援金として振り込まさせていただきました。また、残金は三十周年記念の品物や皆様の研修費などに有効に使用させていただきたいと思っております。このように、皆様との和気あいあいの中にも盛会裏に終わった事を、大変に感謝申し上げます。」

夏休みキッズサンガで今年も素麺流し
毎月第三土曜日午前九時より開催しています。土曜学校。夏休みは、子どもを中心とし、保護者や仏教壮年会・仏教婦人会など世代を超えた行事「キッズサンガ」として開催し、お寺に足が向くようにと気運を高めています。平成二十一年より夏休み子ども早起朝食会を拡大して開催してきましたが、本年度は子ども達の都合により、初めて正午より昼食会というかたちで開催しました。お昼の開催ということもあって、多くの父兄の方々も参加され、約七十名と盛大な素麺流しとなりました。企画に際しては、総代会・仏教壮年会・仏教婦人会の皆様のご協力をいただきました。特に、竹の切り出しなど、猛暑の中を仏教壮年会有志の皆様には誠に「苦労さまでした。また、婦人会の皆様には素麺をはじめ、昨年より一層豪華な美味しい食事を準備いただき、大変に有り難うございました。尚、萩組夏休み子ども一泊合宿が七月二十五・二十六日に萩幼稚園を会場に開催され、光山寺より十三名の参加がありました。



■仏教壮年会会長になりました
本年度の仏教壮年会の総会において仏教壮年会の新任会長に来嶋健治さんが選任されました。今般、就任に際してのお言葉を頂戴しましたのでご紹介いたします。「平素は光山寺仏教壮年会の活動にご理解・協力をいただきお礼申し上げます。さて、このたび第十九回の仏教壮年会総会により前会長の西島さまの後任として仏社会長に就任いたしました。私にとっては大役と感じております。甚だ未熟者ではございますが、選任されましたうえは誠心誠意努めてまいりたいと思っております。光山寺仏教壮年会は会員の親睦を深めるとともに浄土真宗のみ教えを聞法する壮年男性の会として一九九七(平成九)年四月に組織され、数々の活動を行ってきました。現在の主な活動としては、文化部では親鸞聖人のみ教え習得の研修会や雅楽の会による演奏活動や除夜会での富くじ開催、体育部ではソフトボール大会や法要前の清掃・準備、キッズサンガへの手伝い等への企画、萩組や山口教区での研修会、総会等の行事への参加を会員のご協力を得て盛大に行っています。私としてもこれまで同様にご協力をご協力を得ながらこの活動を続けて参りたいと思っております。何とぞ前任者同様に皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。」



○夏休みキッズサンガで今年も素麺流し
毎月第三土曜日午前九時より開催しています。土曜学校。夏休みは、子どもを中心とし、保護者や仏教壮年会・仏教婦人会など世代を超えた行事「キッズサンガ」として開催し、お寺に足が向くようにと気運を高めています。平成二十一年より夏休み子ども早起朝食会を拡大して開催してきましたが、本年度は子ども達の都合により、初めて正午より昼食会というかたちで開催しました。お昼の開催ということもあって、多くの父兄の方々も参加され、約七十名と盛大な素麺流しとなりました。企画に際しては、総代会・仏教壮年会・仏教婦人会の皆様のご協力をいただきました。特に、竹の切り出しなど、猛暑の中を仏教壮年会有志の皆様には誠に「苦労さまでした。また、婦人会の皆様には素麺をはじめ、昨年より一層豪華な美味しい食事を準備いただき、大変に有り難うございました。尚、萩組夏休み子ども一泊合宿が七月二十五・二十六日に萩幼稚園を会場に開催され、光山寺より十三名の参加がありました。

光山寺行事案内

関連行事には
カレンダーに◎印を！
平成二十七年九月～十二月までの光山寺行事予定一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★光山寺法要関連

- 九月二四・二五日(木・金曜)
- 秋季永代経法要(講師、上原泰教師)
- 十一月二八・二九・三〇日(土・日・月曜)
- 報恩講法要 (講師、森 芳麿師)

★山口教区・萩組関連

- 九月二九日(火曜) 連研(清光寺)
- 十一月二日(木曜) 連研(端坊)
- 十一月五日(水曜) 山口別院にて帰敬式執行
- 十一月二六・二八日(木・土曜) 山口別院報恩講法要(山口別院) ※二六日の萩組参拝者募集中
- 十二月二六日(土曜) 午後五時 萩組教化組織懇談会(萩本陣)

★子ども会(土曜学校) 関連

- 十月十八日(日曜) 十一月 七日(土曜)
- 十一月二十日(日曜) 一月 未定日※子ども報恩講

★仏教青年会関連

- 十二月三十一日(木曜) ※除夜会

★仏教壮年会関連

- 十月十八日(日曜) 午後二時 光山寺ソフトボール大会
- 十一月二九日(日曜) 午後七時 報恩講夜座(本堂)
- 十二月九日(土曜) 午後六時 光山寺仏教壮研修会・忘年会

★仏教婦人会関連

- 九月二二日(火曜) 午前八時半 秋季永代経の清掃・莊嚴
- 十月二七日(火曜) 仏教婦人会研修旅行 柳井市妙円寺訪問
- 十一月二六日(木曜) 午前八時半 報恩講の清掃・莊嚴
- 十一月二六日(木曜) 午後八時(本堂)
- 十月十九日(月曜) ※本年最後

★親鸞聖人讃仰会

- 十月十九日(月曜) ※本年最後

★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会)

- 九月十二日(土曜) 十月 十日(土曜) ※本年最後
- 午後七時半(庫裡)

★雅楽練習会

- 九月 六日(日曜) 十月 十八日(日曜)
- ★仏教讃歌コーラス練習会 毎月第三木曜日(本堂)
- 十月十五日(木曜) 午後八時

背負集・お知らせ

今年も別院にて帰敬式

山口別院の報恩講に合わせて今年も帰敬式が執り行われます。帰敬式は、阿弥陀さま・宗祖親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、今後力強く生きていくことを誓う生涯ただ一度の大切な儀式で、「おかみそり」ともいいます。式は原則として本山でご門主によって執り行われ、三帰依文を唱えて、おかみそりを受け、法名をいただくのですが、本願寺以外でも帰敬式執行が可能となりました。受式者全員、**椅子で帰敬式を受式できる**ので、このご縁には是非受式ください。**日時**は十一月二十五日(水曜日)午後一時より受付。午後二時執行。冥加金は成人一万円・未成年五千円を当日持参ください。申込み方法は、お寺まで氏名・生年月日・住所を必ず十月十五日までにお知らせください。また、この度の帰敬式では**法名の内願**(本人がご希望の法名を付ける事)が、九月十五日までとなっています。尚、ご本山での帰敬式は従来どおりに毎日2回行われています。(一月一日・一月十六日の晨朝後、一月八日・十二月二十日終日を除く)



報恩講夜の座

光山寺の報恩講日程は毎年十一月の二十八・二十九・三十日の三日間の固定で、朝・昼の合計六座の法座がもたれています。日程の関係上、仕事などで聴聞ができにくい方々のために、ご講師の宿泊される場合に限って二十九日には夜の座が開かれています。今年の報恩講ではこの夜の座が十一月二十九日午後七時より開かれます。ご講師の先生は、子どもにも分かりやすいお話をしていただけかと思えます。また、この夜の座には**雅楽演奏も加わる**予定です。尚、夜の座が開かれる関係から三十日は午前中にて満座終了となります。また、夜の座が仏教壮年会の研修をかねているので壮年の方々は万障繰り合わせの上ご参加ください。

冬の児童作品募集

本願寺では毎年一月九日から十六日までの間、親鸞さまのお徳をたたえようと、ご苦勞を偲ばせていただく「御正忌報恩講法要」が勤まります。例年、この法要期間中に「**全国児童生徒作品展**」を開催いたします。私たち一人ひとりが**仏さまのみ教えの中で育てられ、生かされている喜びを、作品に表してみましよう**。たくさんのお友達をさそって、みなさんの得意な部門に出品してください。

【作文・詩】

テーマ 今年、戦後70年という節目の年です。今なお戦争や地震、災害などで多くの人が苦しんでいる現実を受けとめ、この節目の年に今の自分の生き方をふり返りながら、平和について考えてみましょう。小学校低学年の方はお父さんやお母さんの意見を聞いてみましょう。

幼児規格無し 小学生 B4縦書400字詰原稿用紙3枚以内

中学生 B4縦書400字詰原稿用紙4枚以内

※原稿用紙の1行目に「題」、2行目に「単位名(団体名)」および「学年」、3行目に「氏名・ふりがな」を必ず明記してください。

【絵画】

課題はありませんので自由に描いてください。(A3・A2・A1・版画も可)。四切(38cm×54cm)以内(全学年共通)。名札を作品下部中央につけてください。

【書道】

幼児 自由に書いてください(二字でも可)。
 小学1年生 〃 「みだ」 小学2年生 〃 「すくい」
 小学3年生 〃 「いのち」 小学4年生 〃 「ひかり」
 小学5年生 〃 「ふかい信」 小学6年生 〃 「浄土真宗」
 中学生 〃 「不可思議光」

※学年・氏名は、自筆で左側に書くこと。ただし、低学年の場合は姓または名前だけでもよい。園児・小学生 半紙(タテ33cm×ヨコ24cmに限る) 書体は楷書。中学生、画仙紙半切四分の一の大きさ(タテ68cm×ヨコ17.5cm) 書体は楷書もしくは行書。名札を作品下部中央につけてください。

表彰

- 「特選」 各部門各学年一名 「入選」 各学年三名以内
- 「佳作」 各学年若干名
- (2) 幼児の各部門入賞作品を表彰いたします。
「はと賞」 各部門若干名
- (3) 応募者全員に参加賞を贈ります。

出品方法 十月二十五日までに光山寺迄お届けください。作品は返却いたしません。

※山口別院作品展については別紙案内をご覧ください。

光山寺仏教讃歌コーラス参加者募集

光山寺仏教讃歌コーラスは、平成三年四月に結成以来二十五年間、仏教讃歌を通しておみのりに遇わさせていただき、「お言葉の美しさ、こころのハーモニを醸し出す」ことを目指して活動しております。参加者も次第に増えていきます。どなたでも参加できますので、みなさんも一緒に歌ってみませんか。

- ①練習は毎月一回で、発表は婦人会法座などで行っています。
- ②一昨年は萩組のコーラスにも加わって、萩組お待ち受け法要に参加させていただきました。
- ③指導して下さる方は、萩市三見明石の山中先生です。



募金箱報告

WWF J (世界自然保護基金日本委員会) の募金箱(焼香机よこ)に集まった**募金五千七百九円**を七月七日送金いたしました。沢山の募金大変に有り難うございました。WWF Jは、東日本大震災前より日本のエネルギーの未来を変えるために、環境保全の視点を政策に、現実的・具体的な道を描く、政府案に対する代替案を出す、温室ガスの削減目標を求める、既成概念を変えていく、エネルギーへの関心を高めるなどの活動を積極的に進めています。

仏教用語辞典

『仏教用語辞典一〇〇』本願寺出版部より

【接待】せつたい

「お客様を接待します」とか、「接待係」「接待所」など、接待とは、お客を厚くもてなすことを意味する日常語として一般によく知られています。仏教では、「接待」とか「撰待」と書いて「シヨウタイ」とか「セツタイ」と読み、一種の施しを意味する仏教語です。道のそばや、家の前に、清水や湯茶を出して置き、そこを通行する行脚僧や旅僧、旅人に飲んでもらうことを、撰待とか門茶といいました。接待茶とか、ふるまい酒というのも、そこから出た言葉です。だから接待とは、飲食物を施してもてなすことなのです。

【刹那】せつな

刹那主義という言葉が流行したことがあります。過去や未来のことを考えず、ただ現在の瞬間だけを楽しむという、享乐的な生き方のことのように思いました。「君の考え方は刹那的だよ」などといえます。刹那はインドの語「クシヤナ」の音訳で、時間の単位の一つです。經典に出てくる時間の単位を現在の時間に直すと、一昼夜(24時間)一須臾(48分)一瞬縛(二分36秒)一刹那(75分の1秒)などとなるそうです。他にも説があるようですが、いずれにしても、刹那とは、非常に短い時間、瞬間ということになるでしょう。

【高座】こうざ

寄席では、演芸を演じる場所を高座といいます。劇場の舞台に匹敵するところですが、ここで落語や講談、浪花節など演じられていることはご承知の通りです。寺院で法要の時、導師のすわる仏前の一段高い座を登高座といい、説教のときに講師のすわる高い座を高座といいます。高座は、お釈迦さまが悟りを開かれた金剛宝座から始まり、その後、説教者や導師のすわる高座となっていたようです。もともと、落語や講談、浪花節などの大衆話芸は、仏教と深いかわりがあり、仏教の説教を母体として始まったものです。ところが、戦後、寺院の布教は、説教から講演式に変わり、演台の前で立つて行なわれるようになりましたので説教者の座る高座は、本堂から姿を消した所が多いようで、もっぱら、寄席にその名を残しているようです。